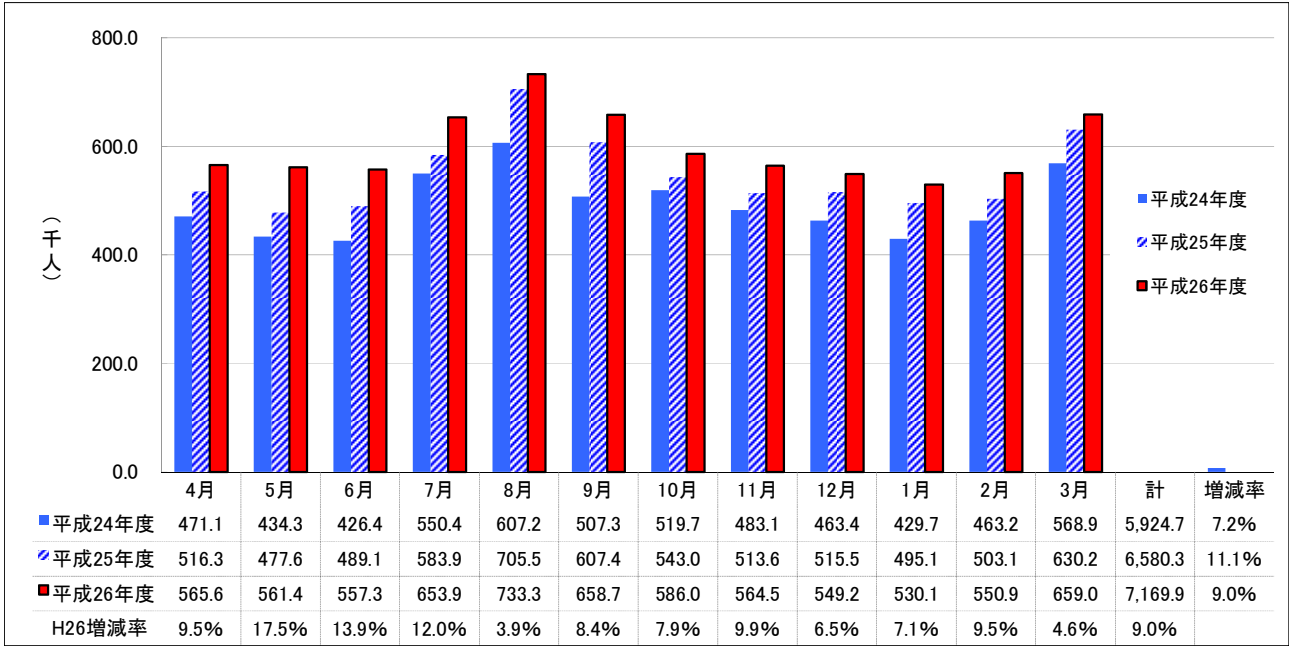


# 平成 26 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課  
平成 27 年 4 月発表

**平成 26 年度の観光客数は、716 万 9,900 人で過去最高**  
対前年度 (H25) 比 +58 万 9,600 人、+9.0%

## ■月別入域観光客数の推移（平成 24 年度～平成 26 年度）



## ■平成 26 年度の概況（総括）

平成 26 年度の入域観光客数は 716 万 9,900 人で、対前年度比 58 万 9,600 人増加、率にして 9.0% の増加となり、2 年連続で過去最高を更新し、初の 700 万人台を記録した。

また、昨年引き続き国内客・外国客ともに過去最高の入込となり、国内客は初の 600 万人台を超え、外国客は 100 万人に届く勢いとなっている。

月別では、全ての月において前年同月を上回るとともに、各月の過去最高記録を更新した。

前年度と比べて増加した要因は次の通りと考えられ、特に外国客の増加が大きく寄与している。

- 円安の継続に伴う国内および訪日旅行需要増
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国人観光客の増
- 那覇空港新国際線旅客ターミナルビル・那覇港旅客船ターミナルの供用開始
- 国内外における官民上げての継続したプロモーション活動

## ■平成 27 年度の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることに加え、円安も継続すると予想されており、国内旅行市場は堅調に推移するとみられるものの、国内観光地との競合が想定される。

また、外国客については、訪日旅行需要の高まりに加え、ソウルー那覇路線新規就航（ピーチアビエーション）など航空路線拡充の動きがあることや、クルーズ船の寄港回数の増が予定されていることなどから、引き続き、好調に推移するものと見込まれる。

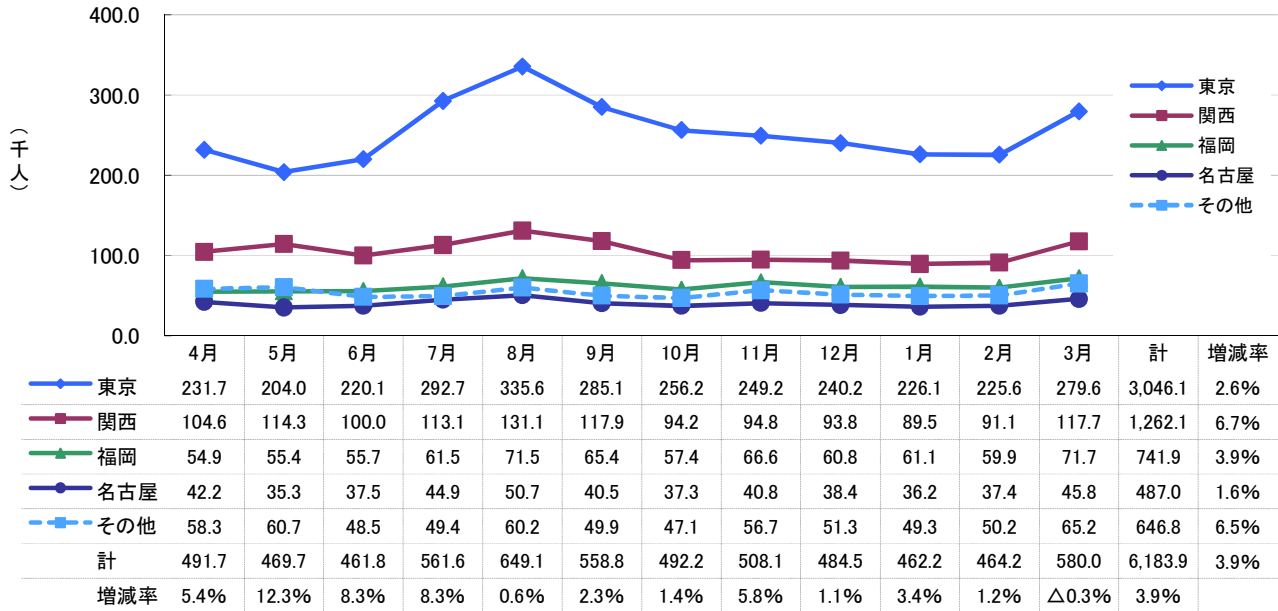
4 月下旬に県内最大級の多機能複合型ショッピングモールの開業や、夏場のリゾートホテル新規開業、スポーツコミッション沖縄の本格稼働開始等、受入体制の充実による誘客効果が期待出来る。

## 国内観光客の動向

### ■入域観光客数（国内）

平成 26 年度の国内客は、618 万 3,900 人で、前年比で 23 万 800 人増、3.9%の増となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 25 年度の 595 万 3,100 人。

### ■平成 26 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



### ■国内観光客の概況

平成 26 年度は円安および景気回復基調が継続し、4 月の消費税増税後も国内旅行需要は堅調に推移した。LCC および新石垣空港開港による効果は昨年ほど顕著ではないものの、JAL の伊丹ー那覇路線、ANA の羽田ー石垣路線の増便や、ピーチアビエーションの福岡ー那覇路線の新規就航等により、前年度を上回った。

#### 【方面別の動向】

**東京方面** LCC（ジェットスター・ジャパン、バニラエア）および石垣路線の好調による増加傾向で推移。後半は一部キャリアの運休等による成田路線の入込が減少したが、羽田ー石垣路線の増便等により好調を維持し、全体で増加した。

**関西方面** 提供座席が増加した伊丹ー那覇路線からの入込増が全体を押し上げ、好調に推移し、増加率は主要方面で最も高かった。

**福岡方面** 福岡ー那覇路線において、ピーチアビエーションの新規就航（7 月）および既存航空会社の増便があり、入込客数・増加率ともに前年度を上回った。

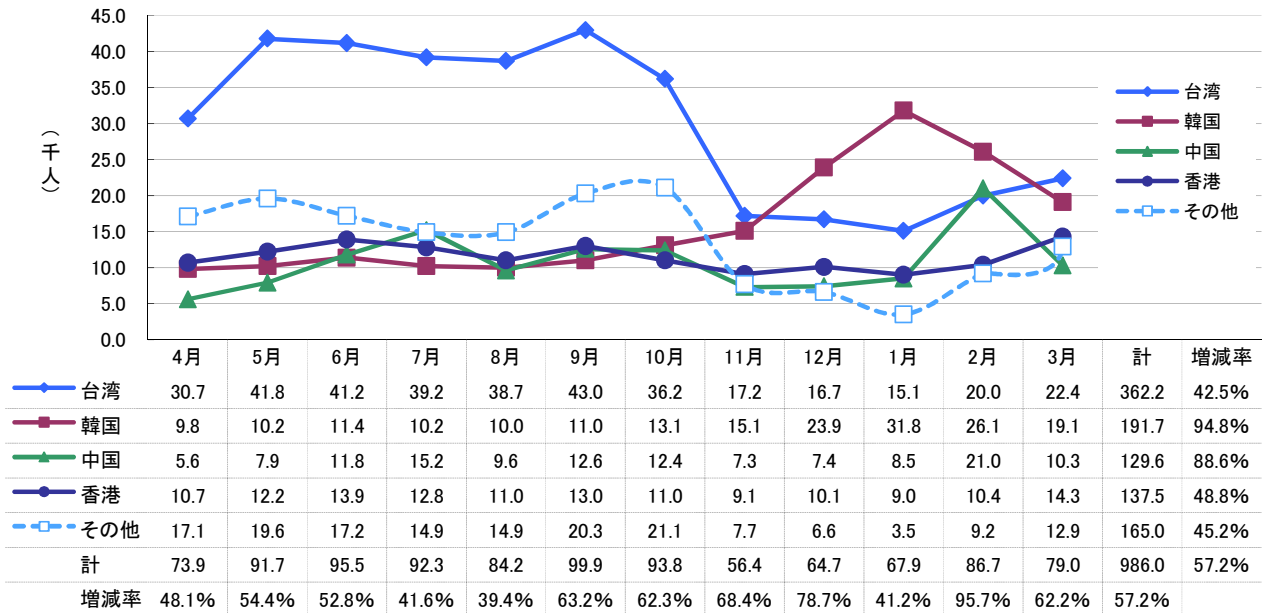
**名古屋方面** 昨年の増加要因であった石垣方面の伸びが落ち着いたが、全体として堅調に推移した。

## 外国人観光客の動向

### ■入域観光客数（外国）

平成 26 年度の外国客は、98 万 6,000 人で、前年比で 35 万 8,800 人増、57.2%の増となり、国内客同様過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 25 年度の 62 万 7,200 人。  
 なお、クルーズ船の乗務員等を除いた外国客は、88 万 7,000 人であった。

### ■平成 26 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



### ■外国人観光客の概況

平成 26 年度も円安が継続し、訪日旅行需要が高かったことに加え、重点市場（台湾、韓国、中国、香港）において航空路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が大幅に増加した。また、クルーズ船の寄港回数増により、海路客も増加した。

さらに、こうした要因に加え、那覇空港新国際線旅客ターミナルビル及び那覇港旅客船ターミナルの供用開始などハード面が整備されたことも、外国客の増加に寄与したと考えられる。

#### 【国籍別の動向】

台湾 台北-那覇路線、高雄-那覇路線で新規就航・増便等があり、空路客を中心に増加。過去最高であった昨年を上回り、初の 30 万人台となった。

韓国 年度後半において、アジアナ航空・ジンエアーの増便、韓国 LCC2 社の新規就航があり、ソウル-那覇路線が拡充、重点市場の中で最も高い増加率となった。

中国本土 新規路線の就航や春節時期の大幅な入込もあり、過去最高となった。クルーズ船の寄港により、海路客も増加した。

香港 香港航空の香港-那覇路線が増便したことや、ピーチアビエーションの香港-那覇路線の新規就航等により、空路客を中心に増加し、過去最高となった。